

【5年】

○=よい点 ●=課題

国語	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動にすすんで取り組む児童が多い。 ○ 文を書くことが得意な児童が多い。 ● 漢字を正しく書くことや語彙力が乏しい児童が約2割いる。 ● 自分の考えや気持ちが伝わるように、豊富な語彙を活用して文章を書く力が不十分である。 ● 自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語述語のつながりや接続語の正しい用法、段落構成技術の向上を図る指導の工夫 ・ 熟語、漢字の意味、言葉のきまりについての学習時間の十分な確保 ・ 新出漢字の指導の充実（書き順、熟語、漢字の意味） ・ 発表活動の充実（少人数での自由な会話から、全体での発表につなげる）
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをノートに書く習慣を身に付けさせるために、書く時間を十分に確保する。国語科の授業だけではなく、他教科のノート指導などでも継続的に細やかな指導を継続して行う。 ・ 語彙を増やし、自分の考えを言葉にできるよう、お手本ノートや言葉の宝箱など教室の掲示を工夫する。 ・ グループ学習や個に応じた学習を通して、語彙力を習得させる指導の工夫。 ・ ムーブノートを活用し自分が書いた文章を多くの友達に読んでもらうことで伝えることの喜びにふれ、苦手意識をなくしていくよう継続的な指導を行う。

社会	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に資料を読み取ってノートにまとめ、日本の地理の様子や生活に欠かせない産業について知ろうとしている。 ○ 社会的事象への関心が高く、多くの知識を身に付けている。 ○ 地図帳や統計資料などの各種資料を通して、情報を適切にまとめようとする態度が身に付いてきた。 ● 地図帳や統計資料などの各種資料の情報を正確に読み取る力が不十分である。 ● 調べたことを国民生活と関連させて社会生活について考え、表現する力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な資料に触れさせる機会と資料解説の時間の確保 ・ 調べて分かったことを国民生活に関連させて、自分の考えを表現する機会と時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科だけではなく他教科でも様々な資料を扱い、関連付けて読み取る力の向上を図る。 ・ 既習事項と結びつけたり、国民の生活と関連させたりして考える活動を取り入れ、繰り返し指導し、評価する。

算数

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題に対して既習事項を用いて答えを出すことに意欲的な児童が多い。 ○ 基本的な四則計算の技能が身に付いている。 ○ 問題の答えを求めた後も、別の方法を考えるなど意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ● 小数の掛け算や割り算では、小数点を正しく付けることが苦手な児童が見られる。 ● 三角定規やコンパス、分度器を使って正しく図形を描けない児童が見られる。 ● 数直線を用いた演算決定の根拠について、筋道を立てて説明することが苦手な児童が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角定規やコンパス、分度器を使って正しく図形を描く指導法の工夫 ・ 4年生までの学習内容の確実な定着を図る指導の充実 ・ 自分で考え、筋道を立てて説明する力の向上を図る指導の工夫 ・ 児童一人ひとりに応じた指導・支援の充実
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項を活用し、算数的な考え方をもとに自分で解決できるように指導する。 ・ コンパスや分度器などを正しく使えるように作図の指導の際には個に応じた指導を行い、技能の定着を図る。 ・ ノート指導を通して、図や数直線、式、言葉を使って自分の考えを表現できるように指導する。 ・ 単元後も学習した内容を東京ベーシックドリルやプリントで繰り返し学習することで、知識・技能の定着を図る。

理科

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然事象に対する興味や関心をもち、授業中や日々の生活の中で、疑問を解決しようとする意欲が見られる。 ● 自然事象に対しての、見る・扱うなどの経験値が低く、問題を把握する、予想を立てるなどが苦手な児童が見られる。 ● 予想や実験結果の考察において、自分の考えの根拠を示しながら筋道立てて記述・発言できない児童が見られる。 ● 実験には意欲的に取り組むが、何を調べるのか、この実験がどのような目的で行うものなのかが明確でない児童が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理科における問題解決学習の基本的な流れの定着を図る指導の充実 ・ 自分の考えとなる根拠を示しながらの考察や予想の書き方の定着を図る指導の充実 ・ 問題作りの場面における体験活動や話し合いの充実
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題把握→自己解決（検証・考察）→振り返りという問題解決学習の流れを確立できるよう、同じサイクルで繰り返し指導する。 ・ 日々の生活の中で、自然事象に対しての興味・関心を高められるような話題・体験の場（生き物を飼育するなど）を提供する。 ・ 実験から分かる事実と、それに対する自分の考えを書くという考察の流れを指導し、児童たちが書き方で困らないようにする。 ・ 単元の導入などの問題作りの場面で、十分な体験や資料から生まれる児童の気付きの共通点や差違点から問題を見いだす。そして児童の疑問を全体で共有しながら、これから解決していきべき問題をつくっていく。

家庭	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的な活動に高い関心をもって取り組み、実習を楽しみにしている。 ○ 友達同士、アドバイスして作業することができる。 ● 裁縫・調理においては、児童の日常生活の経験の差が顕著である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を製作する時間の確保 ・ 体験的・問題解決的学習活動の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生活における基礎的・基本的知識や技能を身に付けるために、多くの事例を示したり、体験的な活動をさせたりする。 ・ 個人差に配慮し、しっかり時間を確保した上で製作の見通しを立てさせる。 ・ 家庭生活に密着して問題を提起し、グループディスカッションやグループワークを取り入れたり、掛け図や資料を活用したりしながら、実践的な活動を充実させる。 ・ 家庭との連携を図り、学習内容を実生活に生かすように促す。

体育	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動や体育への関心が高い児童が多い。 ○ 目指す動きのイメージをもち、自己の課題を把握した上で、具体的に動きを修正できる児童もいる。 ● 自己の課題を解決するために友達と関わりながらアドバイスしたり協力したりする児童が少ない。 ● 日常的に体を動かそうとする児童とそうでない児童に分かれてしまっている。また、運動経験が乏しかったり偏っていたりがあり、得意不得意がはっきりしている。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育学習だけではなく、休み時間や放課後などにもすすんで体を動かそうとする意欲を高める指導の工夫 ・ 段階に合わせた指導方法の工夫 ・ 学習の中で児童同士の対話の時間を確保し、あらゆる視点から課題解決に向けた方法を考えさせる指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す動きのイメージをもつことができるように、取り組む運動の一連の動きの中で、体の部位や動かし方について具体的な学習資料を提示して教える。 ・ 運動実施時の自他の体の動かし方に着目して出来映えを評価し、つまづきの指摘や動きの修正のための助言の方法を指導する。 ・ 克服的・達成的要素の高い運動内容については、その動きを身に付けるために、より簡単な学習の場や方法を提示して動きの高まりを実感できるようにする。 ・ 「できる」「できない」と短絡的に運動をとらえずに、これまでの動きと比較するなど、動きの高まりを判断するための視点を与える。

外国語	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を使って友達とコミュニケーションを取ろうとしたり、すすんで表現したりしようとする児童が多い。 ○ 英語で話している内容を写真やイラストから推測して考えようとしている。 ● コミュニケーション活動の意欲に個人差があり、言葉の意味や言い方が分からないと日本語を使ってしまうことがある。 ● アルファベットの大文字と小文字の組み合わせが難しい児童が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の音声を聞いたり話したりする機会の充実 ・ 英語を使って楽しくやり取りができる指導の工夫 ・ 単語や文、アルファベットを正しく判別する力を育成する指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が英語に慣れ親しみ、言葉の意味を十分に理解できるように ALT やデジタル教科書の音声を聞いたり、発音したりする時間を多くする。 ・ 定型文ではなく、日常生活や自分について伝えたいことをやり取りする機会を設ける。 ・ 継続的にアルファベットや単語をなぞったり、点つなぎや教科書のワードコーナーを使って楽しく学習したりする時間を設ける。

総合的な学習の時間	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習に意欲的に取り組むことができる。模造紙にまとめたり発表の練習をしたりも意欲的である。 ○ タブレット端末を上手に活用しながら調べたりアウトプットしたりすることができる児童も多い。 ● 課題について深めていく中で、多面的な視点で見ることや、多くの情報から必要な物を取捨選択する力に個人差がある。 ● 調べたことを表現するとき、自分なりに工夫して表現することが難しい児童がみられる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら課題を設定し、協働して解決していく探求的な活動の充実 ・ インターネットを適切に活用し、必要な情報の選択や情報の正誤を判断する技能の向上を図る指導の工夫 ・ 互いに学び合い、高め合うための共有する活動の充実
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の身近な話題をテーマに、解決したいという意欲をもてるような課題を事前に設定する。 ・ 話し合いや発表など、互いの学びを見合い伝え合う場面を多く設定し、互いに伝える力や工夫する力を高め合えるように指導する。 ・ 情報リテラシーを身に付けるために、他教科の学習内容と関連付け、正しい情報の選択の仕方や入手した情報の確かめ方についての指導を繰り返し行う。